

2019年も、新たな循環器内科スタッフを迎えることができず、院長の私のみ体制となった。このため、心不全などの循環器疾患の入院患者さんを他の診療科の先生にお願いすることとなった。

1. 入院

入院患者のデータは、循環器疾患の患者のみにしぼっての報告とする。

2019年の循環器疾患患者の入院数は112名（CPA例は除く）で、その多くは後期高齢者であった。平均年齢が84±10歳（中央値は85歳）、このうち死亡患者は12名で11%であり、全て85歳以上の方であった。

入院の疾患別内訳は、心不全が最も多く65名（慢性心不全の急性増悪47名、急性心不全18名）であった。最近の傾向としては、高齢者を反映しているのかもしれないが、CKD、心房細動の合併例が高率となっており、その管理に難渋している。

心筋梗塞での入院は2名、急性期治療の目的で熊本市内の急性期病院へ転送となった急性心筋梗塞の患者が13名であった。なお、CPAOAの患者で虚血性心疾患を疑われる内因性心臓死の方が6名おられた。

急性大動脈解離は、転送が2名のみとなっている。

その他の入院では不整脈に関連した患者が11名、大動脈瘤の術後や閉塞性動脈硬化症などの血管疾患が13名だった。

当院の入院患者全体の半数以上の方が80歳以上となっているため、骨折などで入院される高齢者も多くなっている。その場合、心房細動、慢性心不全、大動脈弁疾患などの合併が多いため、このような方の管理も最近増加している。

(表1) 入院患者の疾患内訳 (例)

急性心筋梗塞（転送を含む）	13
急性大動脈解離（CPAを含む）	2
心不全	65
不整脈	8
狭心症、OMI	2
血管疾患	13
弁膜症	6

2. 外来

外来では、今年も済生会熊本病院心臓血管外科から毎週外来の支援をしていただいた。

外来患者の多くは生活習慣病の患者である。毎月約900人の患者の診療を行ったが、中でも糖尿病の症例は増加が著しく、25%程度となっている。

外来で定期的にペースメーカーチェックを行っている患者は60数名であった。

循環器関連の検査は前年度と大きな変化はなかった。心電図：4,428件、トレッドミル：29件、ホルター：103件、心エコー：1,465件、負荷心エコー：6件、ABI：119件、下肢動脈エコー：64件、下肢静脈エコー：135件、頸部血管エコー：125件、ヘッドアップティルトテストが186件であった。(表2)

(例)

	2019年度	2018年度
心エコー	1,465	1,660
負荷エコー	6	9
トレッドミル	29	33
ホルター	103	124
頸部血管エコー	125	150
下肢血管エコー	199	182
ABI	119	126
心臓CT	11	22
血管CT&,MRI	92	139